



次世代に つなげる森林づくり

平成 27 年 2 月 12 日

★民有林と連携したシカ食害軽減への取り組みの一環として！
有識者を交え「小型囲いわな」の捕獲技術向上のフォローアップを実施！

◆一月十四日（水）

四万十町松生原・折合地区において、地元住民及び県や農協獣害対策指導員等関係者の方々に集まっていただき、シカの捕獲技術の向上を図るための現地検討会を再度開催しました。

今回は、NPO法人「四国自然史科学研究所センター」の金城芳典副センター長に出席を願い、動物生態学専門の立場からアドバイスをいただきました。

昨年の七月、当地区の民有林内に設置した「小型囲いわな」については、十月に、自動カメラでシカの行動を可視化して把握するなど、捕獲向上の工夫を図ってきたところで、そして今回、まずは地区集会所でシカの行動パターン等について説明していただいた上で、皆で民有林と国有林の現地に赴き、設置箇所の選定や設置の際の工夫などについて意見交換を行いました。

住民の方々からは「国有林に入るのには何十年ぶり、製品事業所の跡地を見られて賑やかで元気があった頃を思い出した。」「この尾根や谷がオラの集落に続いちゅうは「張りましよ」という声が聞かれ、「またお互い頑張りましよ」と土気もあがりました。こうした取組の積み重ねが民国連携したシカ害対策に対する理解の醸成や捕獲意欲の向上に資するものと改めて感じました。

◆一月十六日（金）
野地区に於ける愛媛県立松山大学農学部附属演習林のシカ捕獲実習。参加者は、事前にシカ駆除の目的や安全対策について説明を受け、現場でシカを捕獲し、その後の処理方法やシカ害の現状について話し合った。

★愛媛大学演習林にて
シカを捕獲！成果現る！



民有林内で検討



座談会



国有林内で検討



囲いわな設置時の様子



捕獲した27kgの雌ジカ

◆一月十六日（金）
野地区に於ける愛媛県立松山大学農学部附属演習林のシカ捕獲実習。参加者は、事前にシカ駆除の目的や安全対策について説明を受け、現場でシカを捕獲し、その後の処理方法やシカ害の現状について話し合った。